

産婦人科学

1 担当教員名

【研究指導教授】 教授 大須賀 智子
【科目担当者】

2 教育目標

(1) ねらい

- ・学生は、産婦人科における疾患の病態についての考察力を高める。
- ・学生は、女性の生理学的な特徴について理解する。
- ・学生は、産婦人科の臨床上的問題点を、臨床研究や基礎研究の「問い」へ変換し解決する方法を知る。

(2) 学修の到達目標

- ① 学生は、女性のホルモン分泌に関する制御機構について説明できる。
- ② 学生は、加齢に伴う女性の身体的な変化と疾患とのかかわりについて説明できる。
- ③ 学生は、自身の学習内容や、研究成果について、適切なアプリケーションの操作により表現できる。
- ④ 学生は、クリニカルクエスチョンからリサーチクエスチョンへの変換が実施できる。
- ⑤ 学生は、遺伝子発現や濃度測定に必要な機器の操作の他、必要時適切な AI の活用ができる。

3 授業内容

【講義】	女性のホルモン分泌や生理学的な特徴と女性特有の疾患(筋腫や内膜症などの良性疾患、月経異常、女性のがん、更年期障害他)とのかかわりについて講義を行う。現代の医療で解決できていない問題について討論し課題の抽出を行う。
【演習】	上記課題を解決し発信するための方法を習得する。具体的には、論文検索、PICO/PECO や仮説の立て方、必要なデータの収集方法、データの解析方法、図表の作成、学会発表のためのスライド作成や論文執筆の手順を演習する。
【実験研究】	臨床研究では、収集データや公開レジストリデータを用い、データ整理や適切なソフトウェアによる統計解析、作図、結果の解釈を行う。基礎実験では、モデル動物の作成や表現型の解析法について、細胞株を用いた添加実験ならびに発現解析等により、病態の再現と解析についての手法や考え方を学ぶ。

4 成績評価の方法・基準

- ・講義をもとに、女性特有の疾患の治療における課題を抽出し、指導教員とのディスカッションの後プレゼンテーションを実施し評価する。
- ・演習で習得した技術を活用して解決する課題を与える。課題をレポートとして提出し、習得度を測る。
- ・自身で抽出した研究課題について、演習で得た知識や技術を用いた研究計画を立案し、計画書をレポートとして提出し、実行可能性について評価を行う。

5 教科書・参考図書

- ・今日から使える医療統計 第2版, 新谷歩, 医学書院, (2024)
- ・Molecular Cloning: A Laboratory Manual, Fourth Edition, Michael R. Green 他, Cold Spring Harbor Laboratory Press,U.S. (2012)
- ・みえる！わかる！女性内分泌, 岩瀬 明他, メジカルビュー社 (2022)
- ・他、適宜プリント配布や論文提示を行う

6 準備学習(予習, 復習等)及び必要な時間

テキストや事前学習資料などに目を通しておく。(1週間に7時間程度の予習・復習が望ましい。)

7 課程修了・学位授与方針と当該授業科目の関連

女性特有の疾患に関する研究・論文作成を通して、女性内分泌、生殖生理学分野における高度な専門知識と論理的思考を伴う。研究実践力、特に専門領域での様々な課題に対応できる実践力を修得できる。

8 課題(試験・レポート等)に対するフィードバック方法

講義, 実習中やオフィスアワーに疑問点の解説, レポート内容の評価、研究方法や進捗、成果プレゼンテーションについてのフィードバックを行う。

9 履修上の留意点

疑問点については、随時担当教員に相談すること。

10 オフィスアワー

職名	氏名	曜日	時間帯	場所	連絡先
教授	大須賀 智子	火	15:00~18:00	C棟7階 教授室	内線 22153 (産婦人科 医局)
		木	17:00~18:00		